

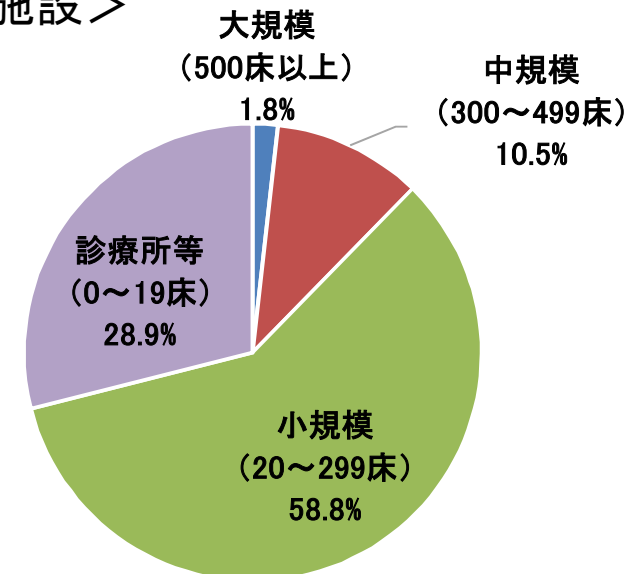
血液製剤使用実態の動向と適正使用の推進に係る  
アンケート調査の結果について

# 調査概要

- 調査時期: 2018年9月下旬～10月26日
- 調査対象期間: 2017年1月1日～12月31日
- 調査対象施設: 2017年1月1日～12月31日に輸血用血液製剤の供給があった県内医療機関148施設
- 回答状況: アンケート回収率は77.0%(114施設/148施設)で、群馬県赤十字血液センターが供給した赤血球製剤の94.2%、血漿製剤の98.9%、血小板製剤の98.5%、全製剤の97.0%に相当する。

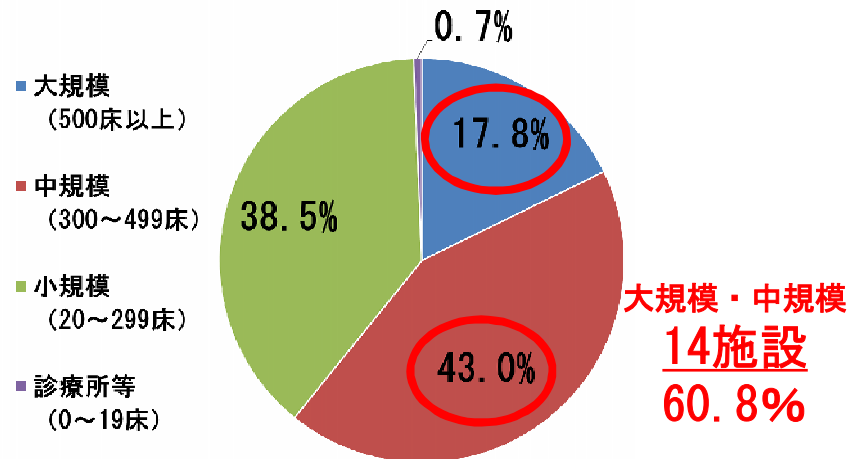
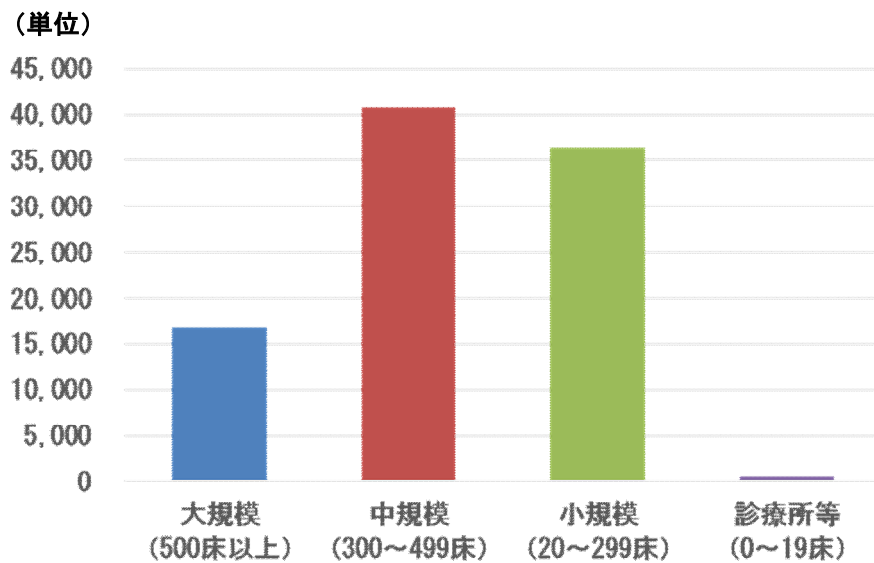
	対象施設数	回答施設数	回収率
大規模 (500床以上)	2	2	100.0%
中規模 (300～499床)	12	12	100.0%
小規模 (20～299床)	80	67	83.8%
診療所等 (0～19床)	54	33	61.1%
合計	148	114	77.0%

## <回答施設>

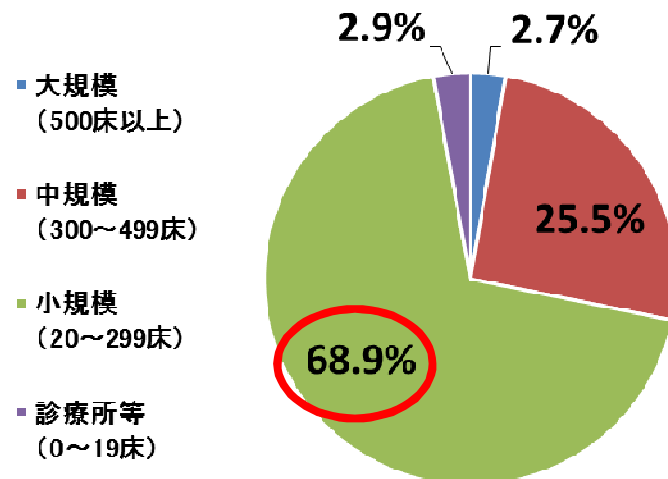
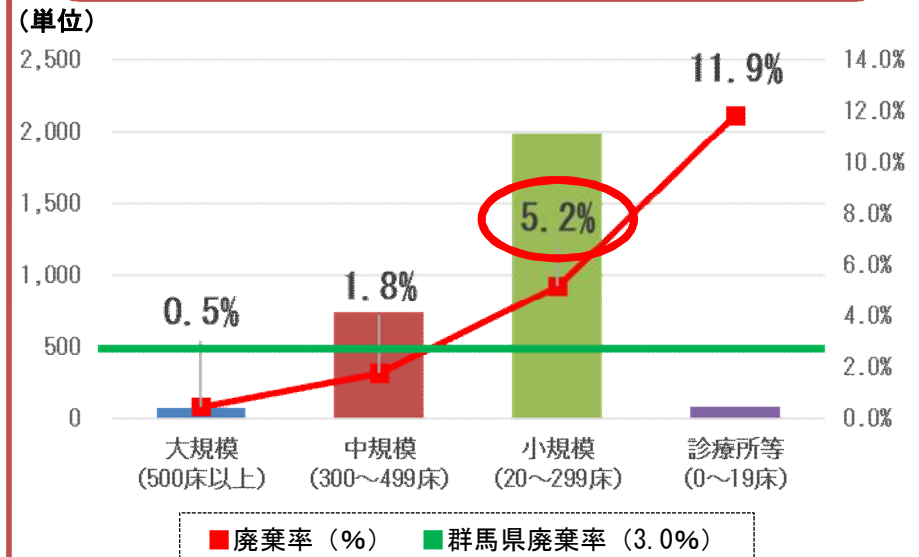


# 赤血球製剤 使用量・廃棄量

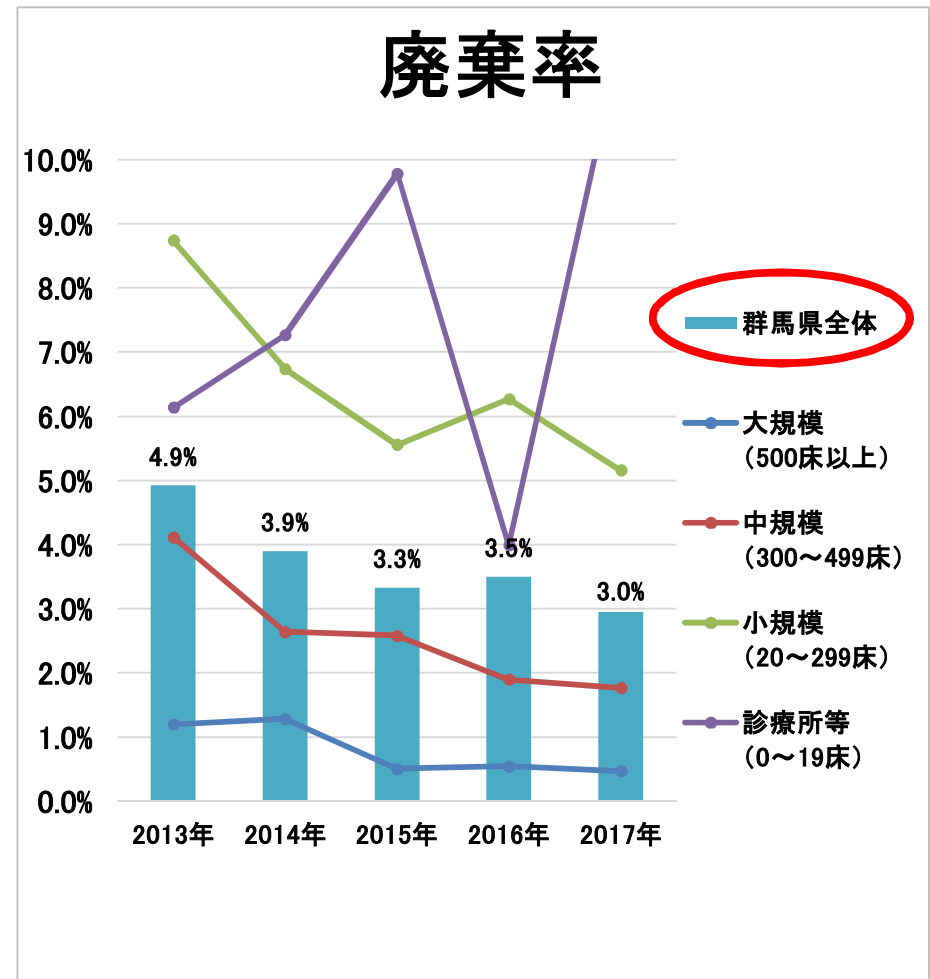
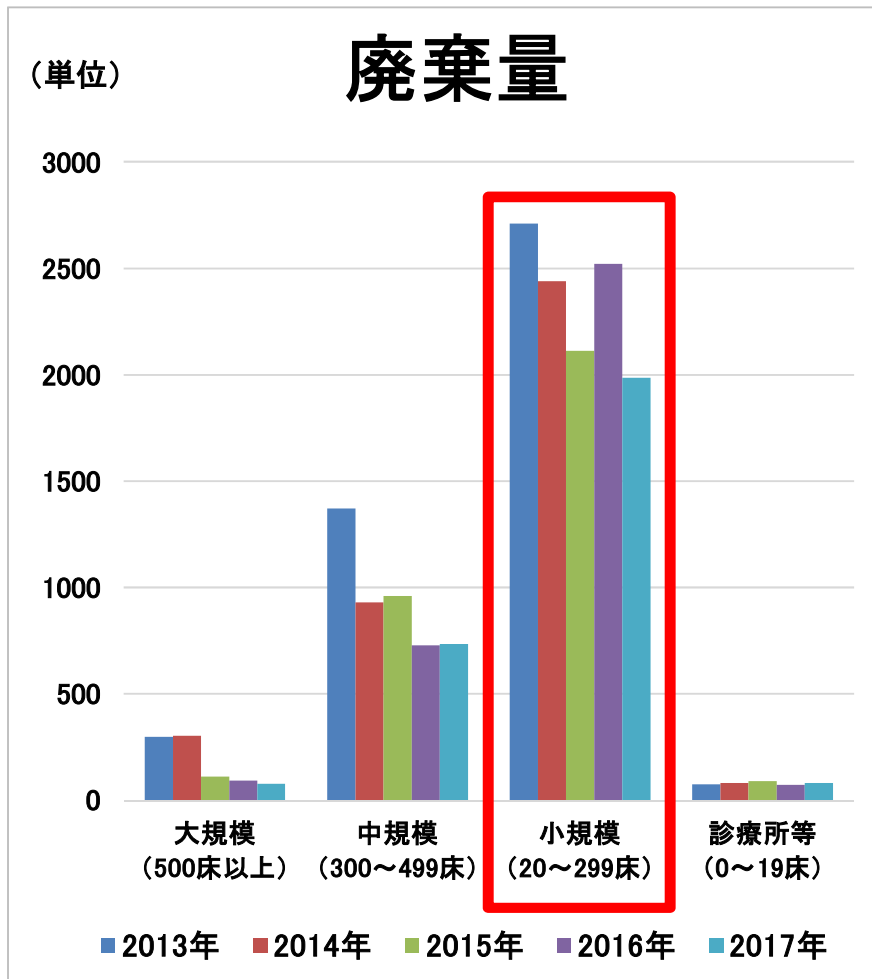
年間使用量：94,688単位



年間廃棄量：2,882単位  
廃棄率：3.0%

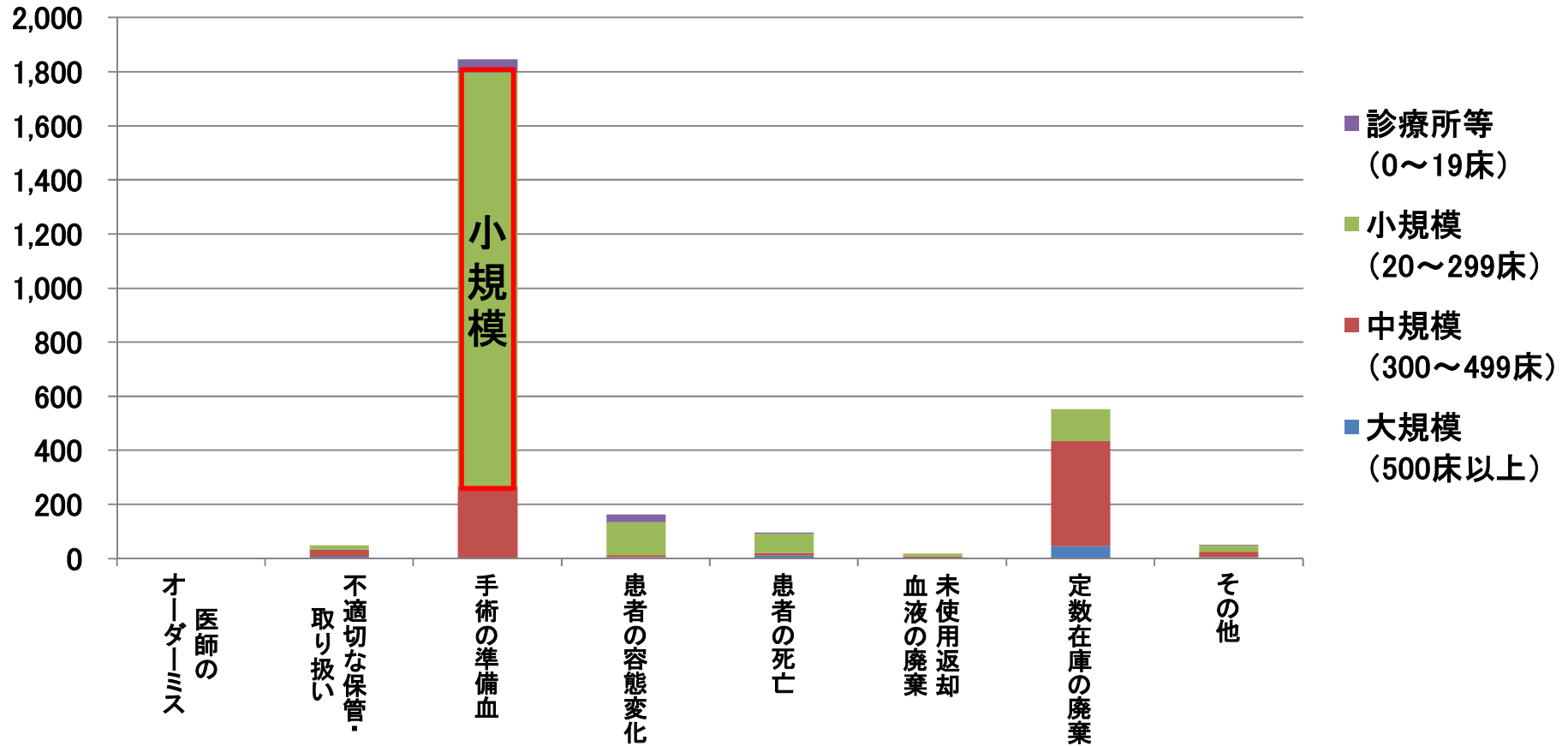


# 過去5年間の廃棄量・廃棄率



# 赤血球製剤 理由別廃棄量

(単位)



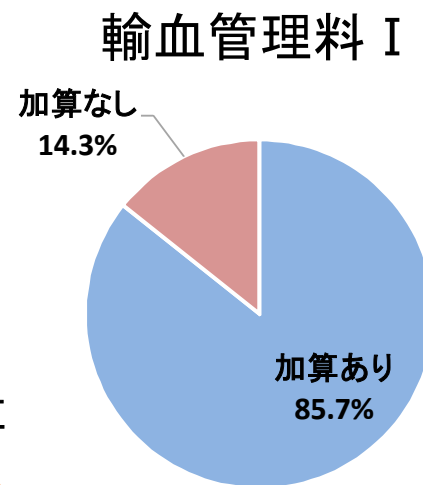
## <その他>

- 患者が輸血拒否
- 超緊急輸血対応のため
- 転院
- 輸血セット接続時に血液バッグを破損した
- 定数在庫または手術準備血として確保したが使用されないまま期限切れとなった
- 交差適合試験で主試験が陽性となり、輸血を実施しなかった
- 不規則性抗体による交差試験不適合で使用しないまま期限切れとなった

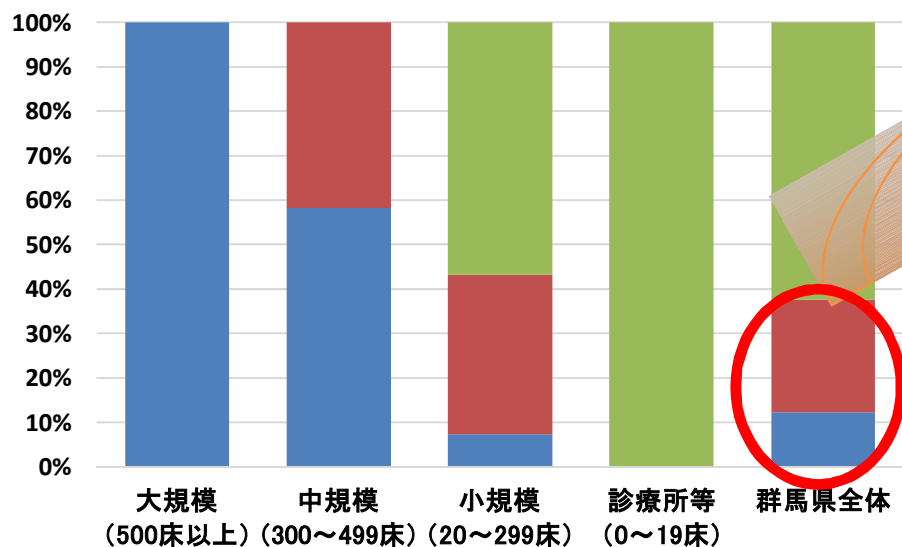
# 【輸血管理体制】

## 輸血管理料について

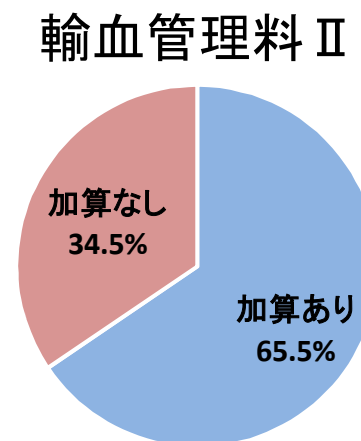
	回答 施設数	輸血 管理料 I	輸血 管理料 II	なし
大規模 (500床以上)	2	2	0	0
中規模 (300~499床)	12	7	5	0
小規模 (20~299床)	67	5	24	38
診療所等 (0~19床)	33	0	0	33
合計	114	14	29	71



輸血適正使用加算

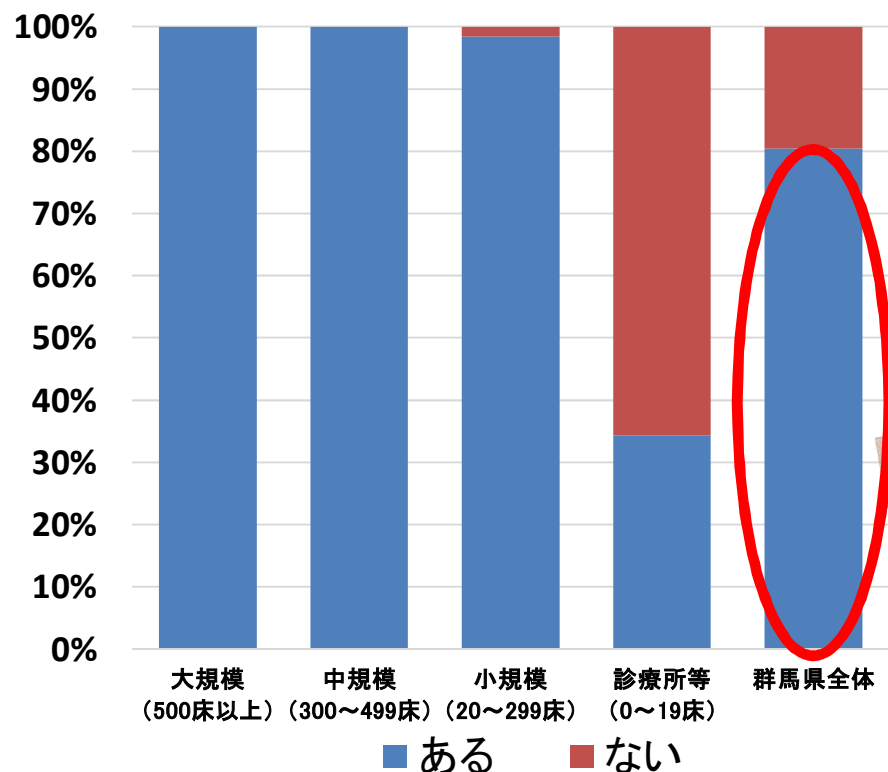


■ なし  
■ 輸血管理料 II  
■ 輸血管理料 I



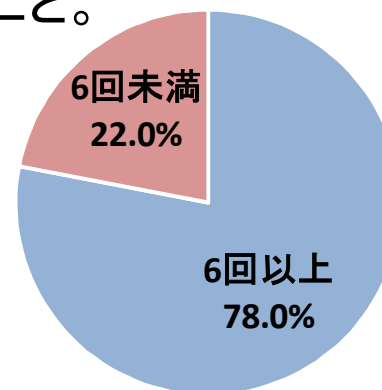
# 【輸血管理体制】

## 輸血療法委員会について



### ＜輸血管理料 施設基準＞

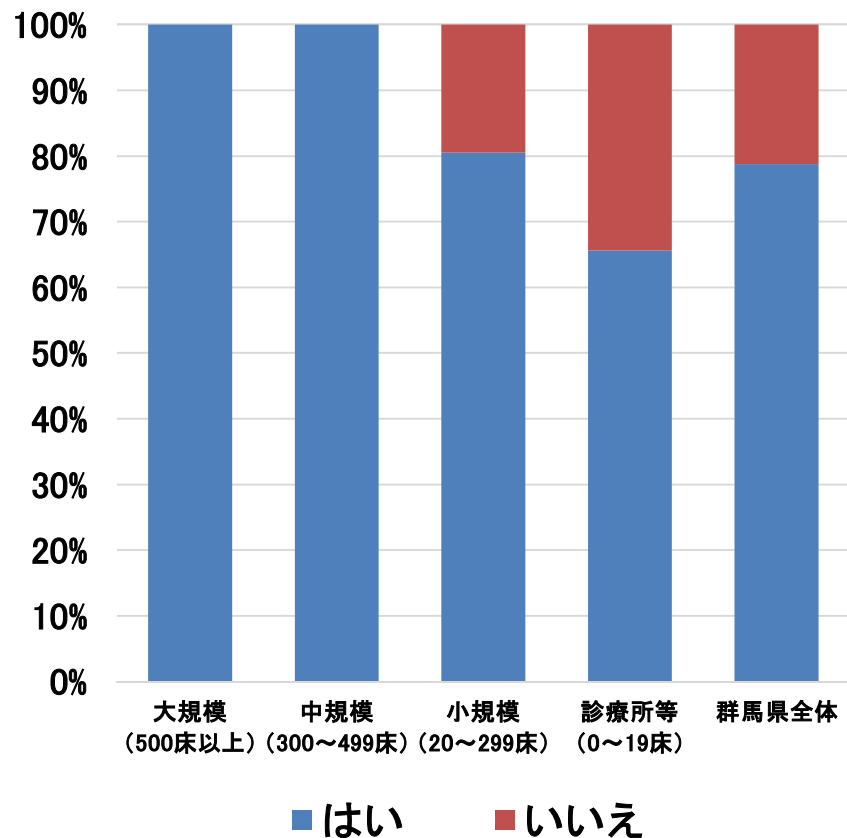
輸血療法委員会が設置され、年6回以上開催されるとともに、血液製剤の使用実態の報告がなされる等、輸血実施に当たっての適正化の取組がなされていること。



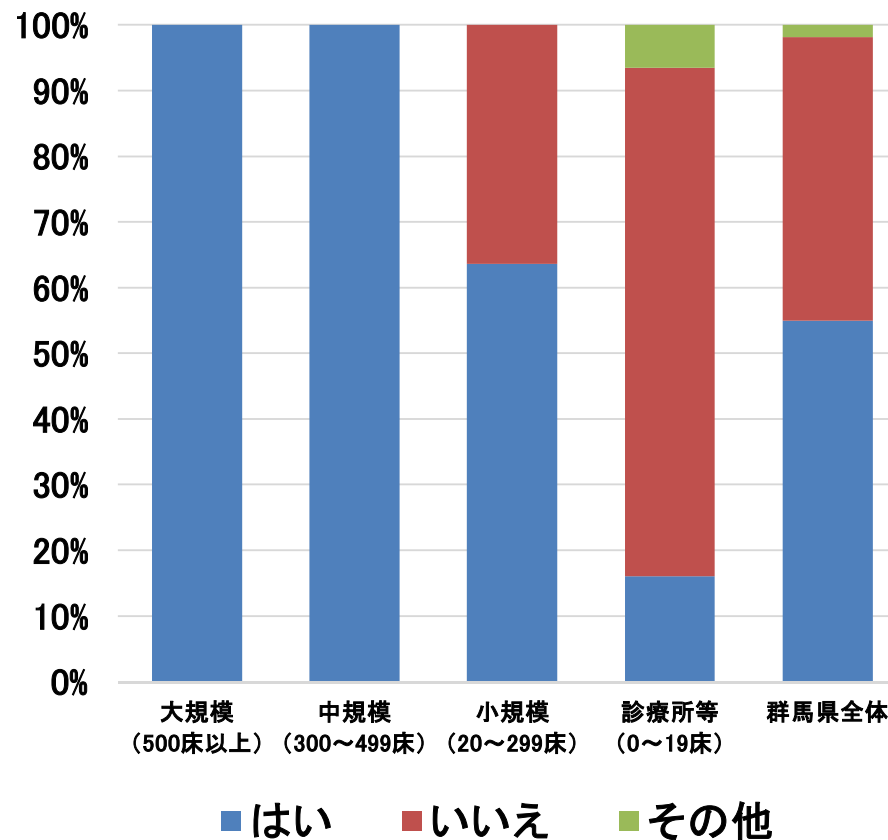
➤ 院内監査(病棟ラウンド)を実施していた施設は、8施設(7.1%)

# 【輸血管理体制】

## 輸血責任医師の任命



## 輸血担当技師の配置



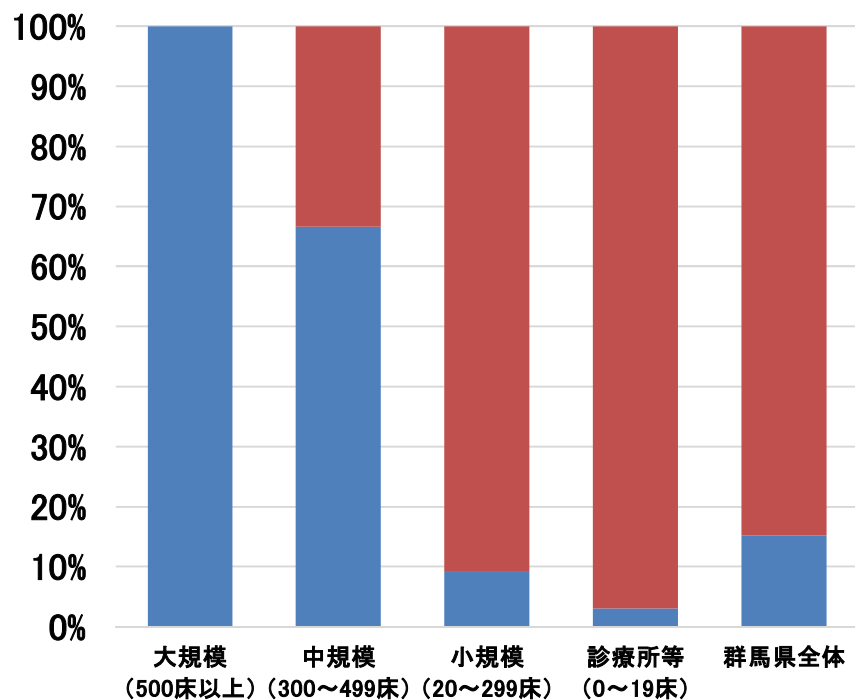


# 【輸血管理体制】

## 学会認定・臨床輸血看護師について

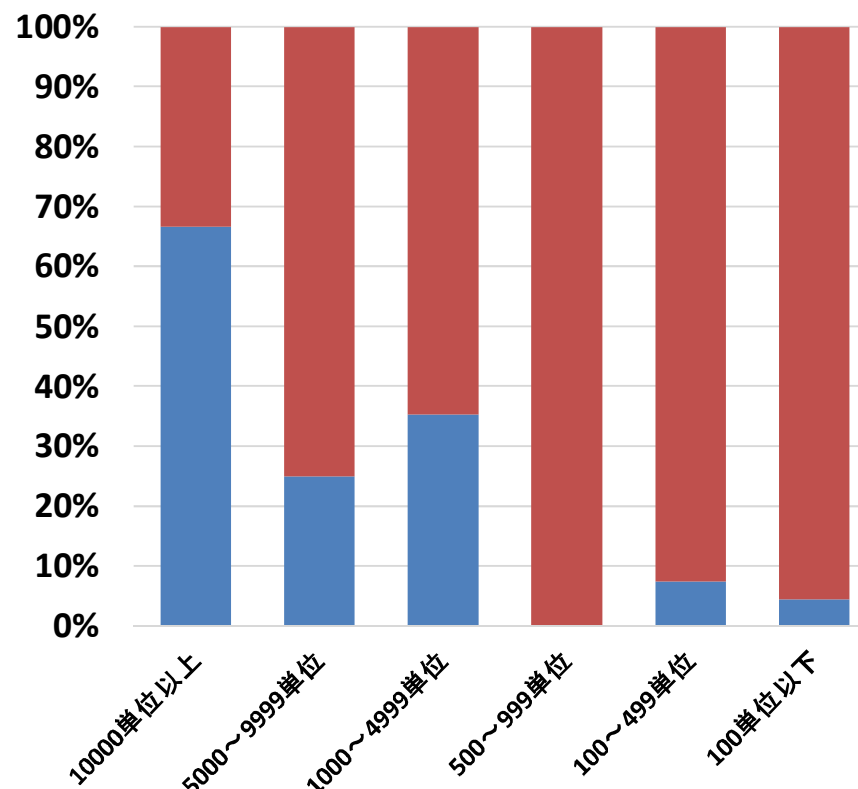
### 学会認定・臨床輸血看護師がいる施設

#### 施設規模



■ いる ■ いない

#### 輸血量 (赤血球 + 血漿 + 血小板)



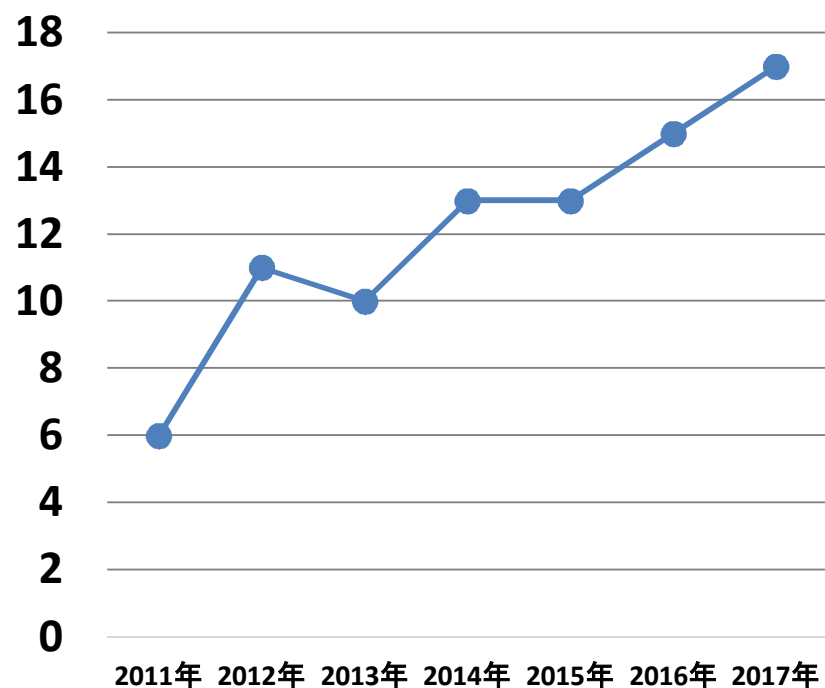
■ いる ■ いない

## 【輸血管理体制】

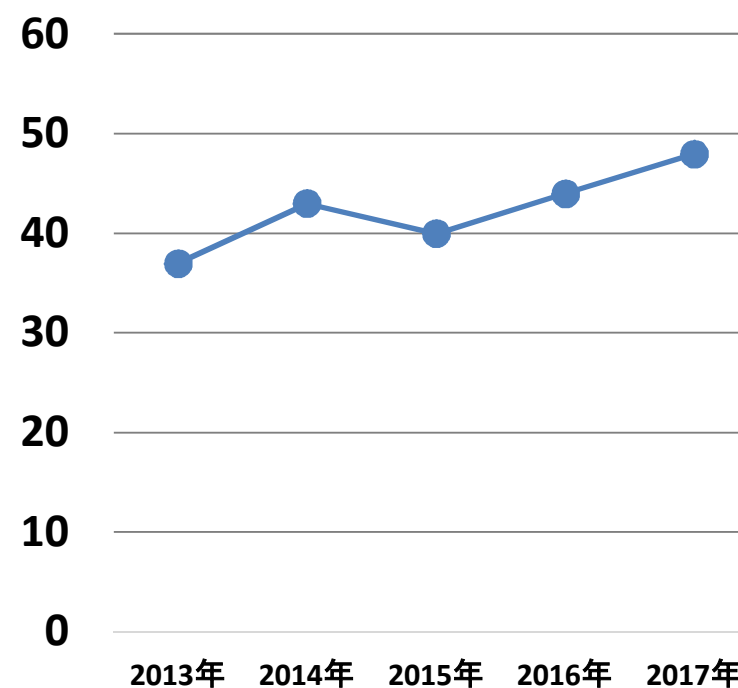
### 学会認定・臨床輸血看護師

学会認定・臨床輸血看護師がいる施設及び人数の推移

#### 施設数



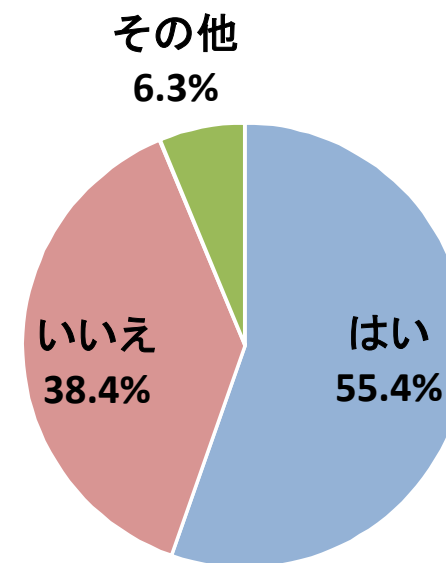
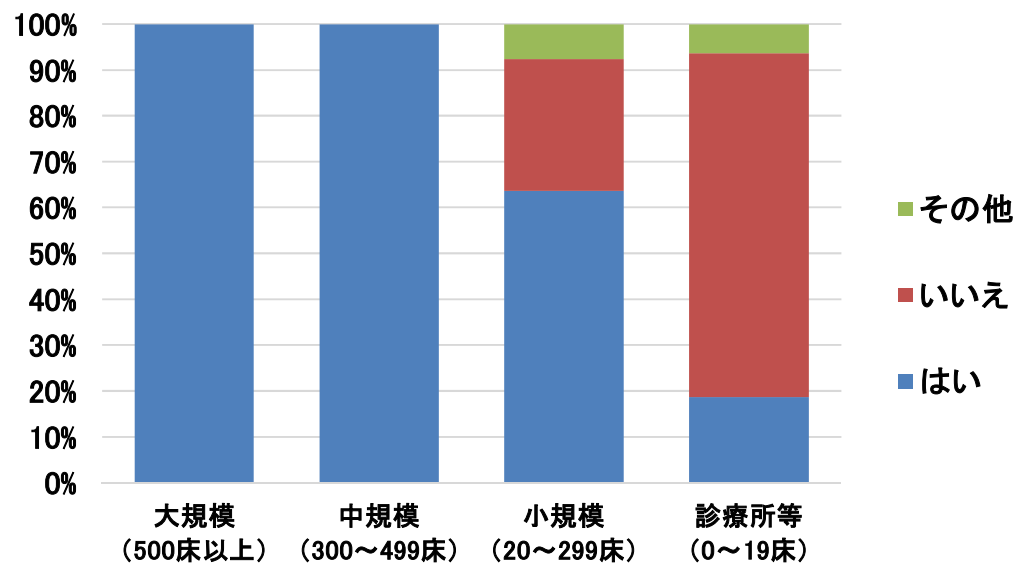
#### 人数



# 【血液製剤の管理】

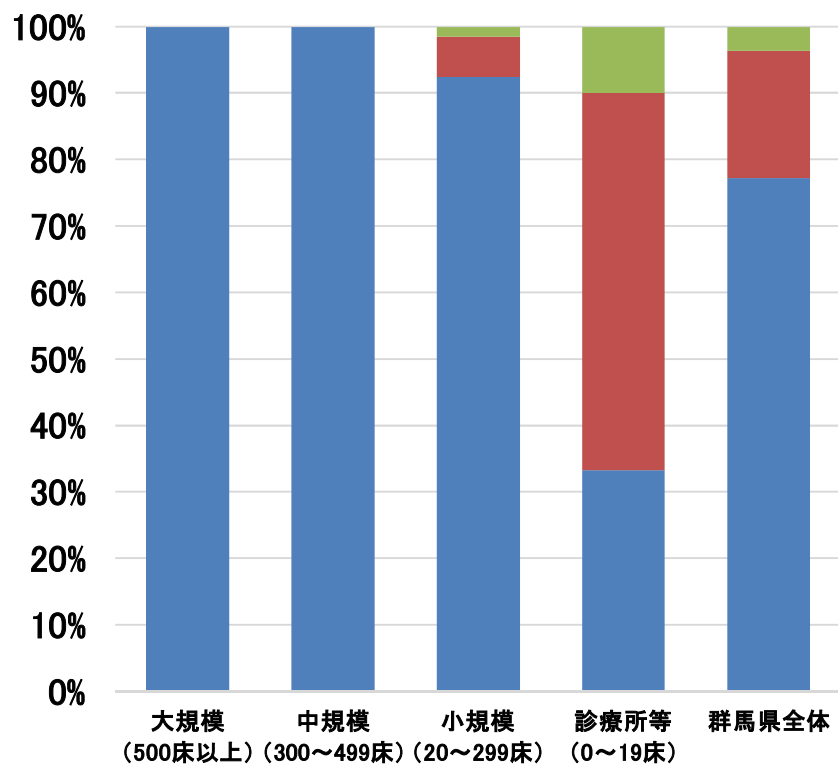
## 輸血部門での24時間一元管理

	回答 施設数	はい	いいえ	その他
大規模 (500床以上)	2	2	0	0
中規模 (300~499床)	12	12	0	0
小規模 (20~299床)	66	42	19	5
診療所等 (0~19床)	32	6	24	2
合計	112	62	43	7



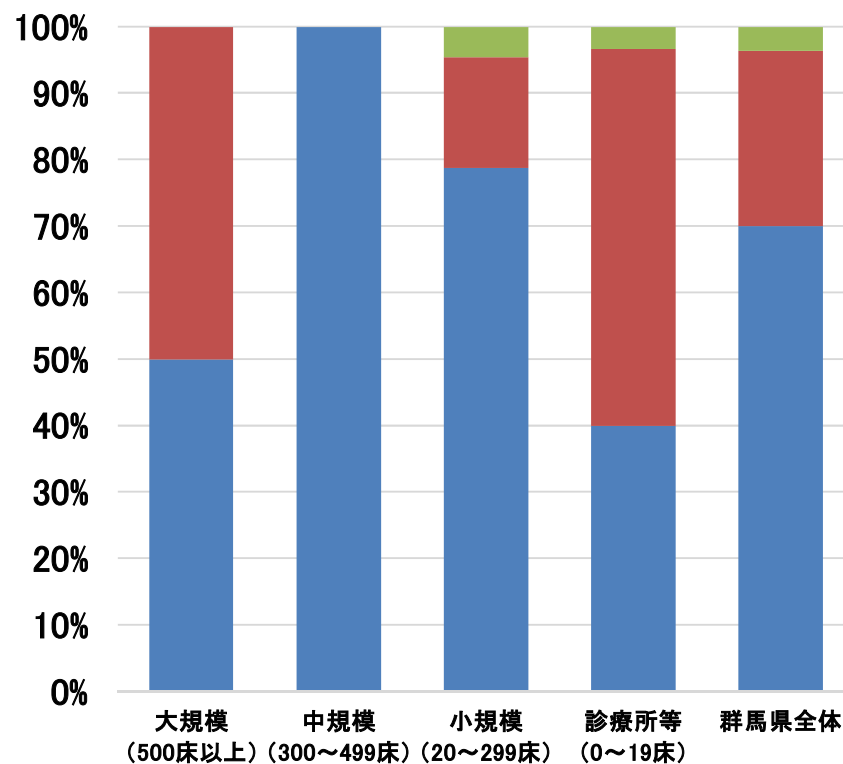
## 【血液製剤の管理】

### 血液専用保冷庫の 自記温度計・警報



■ はい ■ いいえ ■ その他

### 血液専用保冷庫の 日常点検とその記録



■ はい ■ いいえ ■ その他

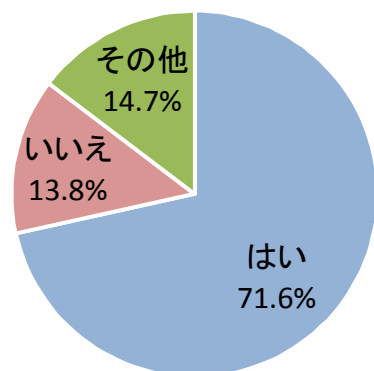
## 【輸血検査】

# 輸血検査の実施とマニュアルの整備

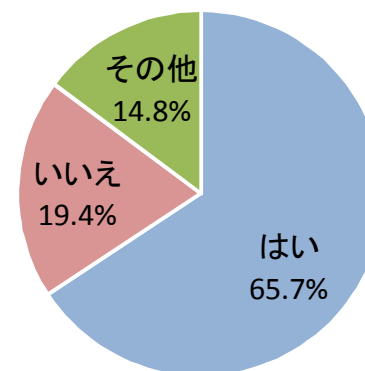
※その他：検査センターに外注している

### ABO血液型検査

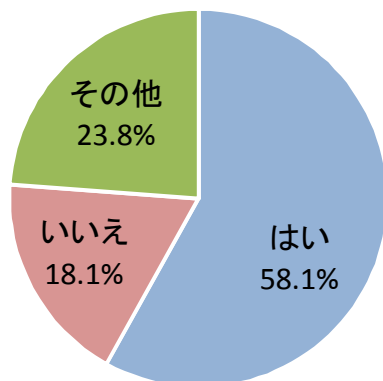
(オモテ試験・ウラ試験)



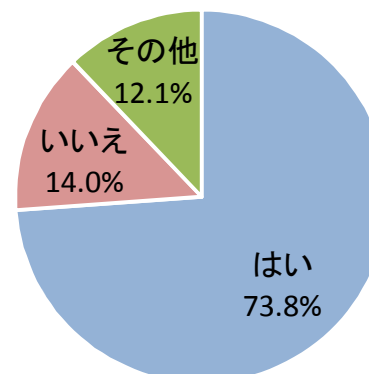
### Rh血液型検査



### 不規則抗体検査



### 交差適合試験



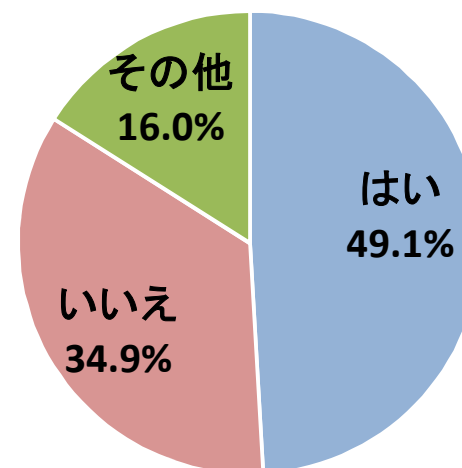
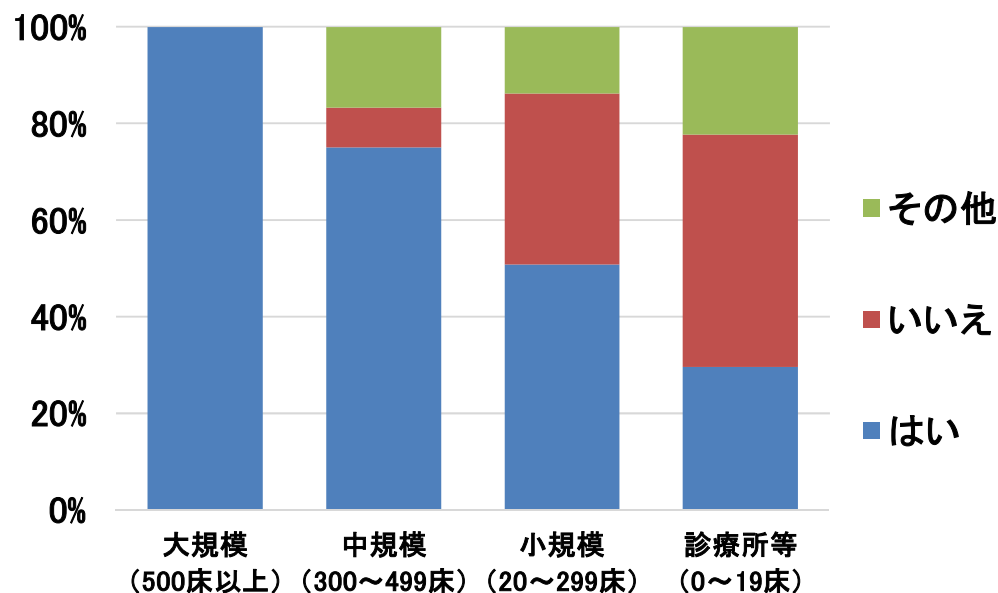
## 【輸血検査】

### ABO・Rh血液型検査の異なる2検体での実施

	回答施設数	はい	いいえ	その他
大規模 (500床以上)	2	2	0	0
中規模 (300～499床)	12	9	1	2
小規模 (20～299床)	65	33	23	9
診療所等 (0～19床)	27	8	13	6
合計	106	52	37	17

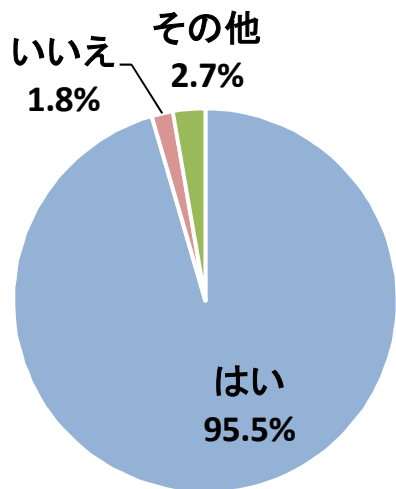
#### <その他>

- 原則として2回実施であるが、超緊急時は1回のみの場合もある
- 緊急時は1回のときあり
- 2名の技師で確認をしているのみ
- 輸血を行う患者の場合は2回実施している

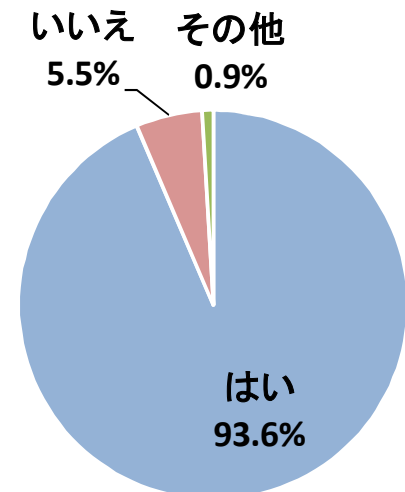


# 【輸血の実施】

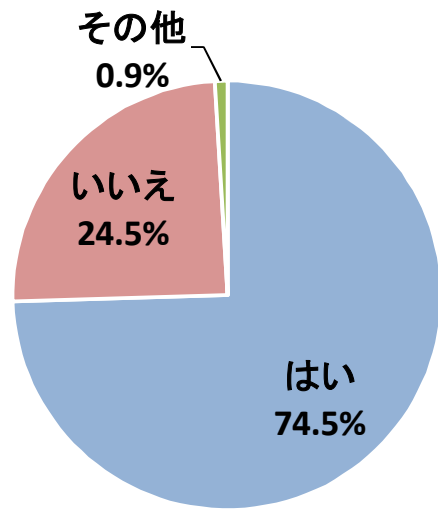
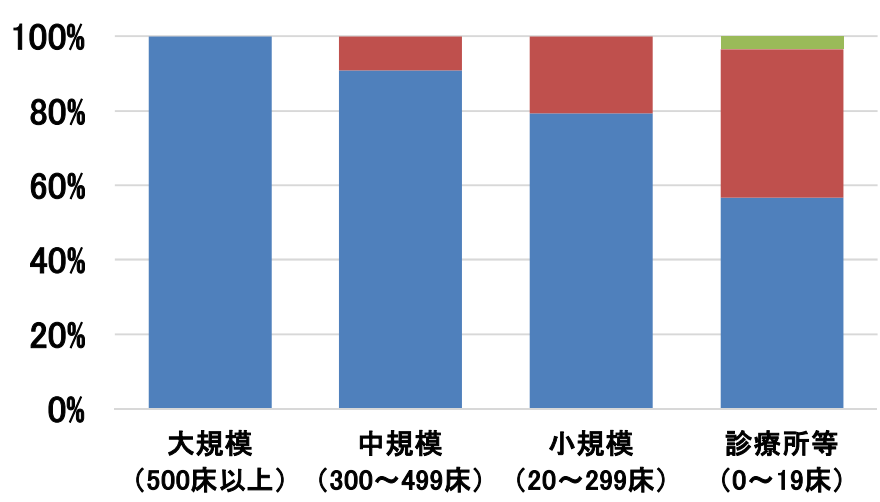
ナースステーションでの  
2名による照合確認とその記録



1回1患者の輸血準備



ベッドサイドでの照合確認とその記録

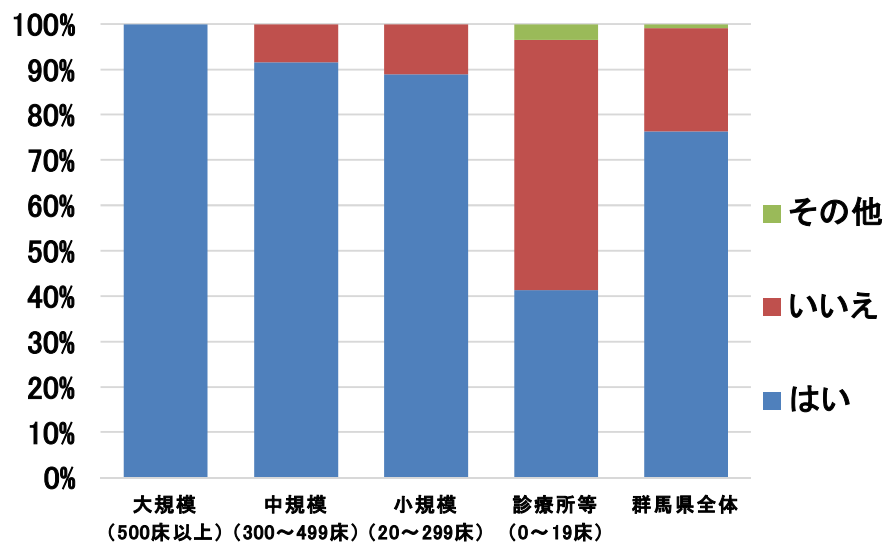


# 【副作用への対応】

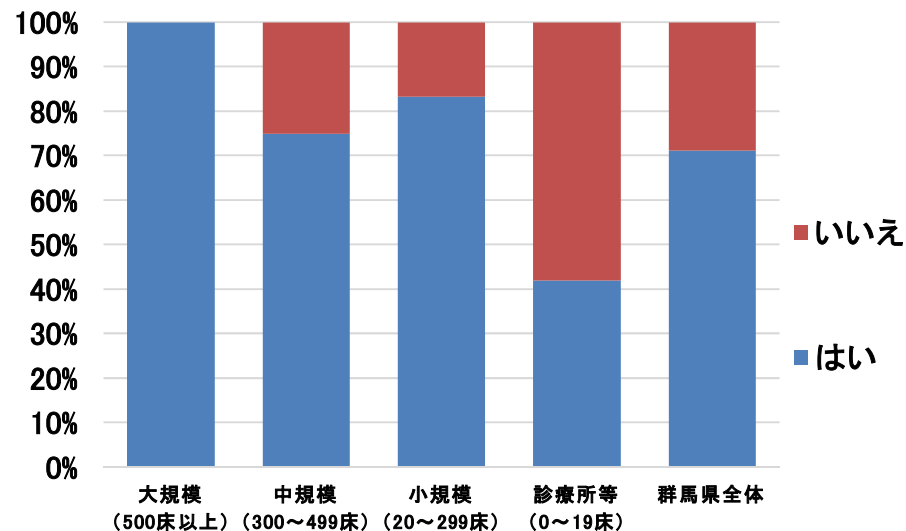
## ＜実施率＞

- ① 輸血前の観察とバイタルの記録 : 98.2%
- ② 開始5分間の副作用有無の記録 : 99.1%  
バイタルの記録 : 96.4%
- ③ 開始15分後の副作用有無の記録 : 99.1%  
バイタルの記録 : 94.6%

### 副作用の報告体制の文書化と副作用発生状況の記録



### 副作用の診断・治療の文書化





# まとめ

- ◆群馬県の赤血球製剤の廃棄率は年々低下してきており、2017年の廃棄率は3.0%であった。
- ◆赤血球製剤の廃棄の主な原因は「手術の準備血」で、小規模施設では手術準備血の転用が難しい状況であることが分かった。
- ◆「輸血療法の実施に関する指針」では、血液型検査について「同一患者の二重チェック」が求められているが、異なる2検体で実施している施設は49.1%であった。
- ◆輸血実施時の確認として「ベッドサイドでの照合確認とその記録」については、24.5%の施設で「いいえ」との回答であった。

アンケートにご協力いただき、  
ありがとうございました。

今後とも  
「安全で適正な輸血医療のために」  
ご協力をお願いいたします。